

東京・木場公園に新たな法輪功の煉功場

東京都江東区の本場公園内に、2024年初頭から新たな法輪功（ファールンゴン）の煉功場が設けられている。ここでは、法輪功学習者（以下、学習者）たちが毎日午前4時40分から7時30分まで煉功を行っており、特に日曜日には学法の時間も設けられている。現在、日本人、中国人、ベトナム人、韓国人など16人が参加している。

煉功場の運営と広がり

ベトナム出身の学習者グエン・ティ・ファンさんは煉功場の世話人を務める。「参加者全員が集まれる時間を決めるのに苦労しました」と振り返る。彼女は煉功場を通じて法輪功を知る人が増えていることを感じている。展示パネルを設置したところ、興味を持つ人が現れ、写真を撮る人や一緒に練習したいと申し出る人もいた。また、インター

ネット経由で問い合わせもあるという。

日本人学習者の大友さんは、2012年から法輪功を学び始めた。きっかけは父親が『轉法輪』を紹介してくれたことだ。「これまで探していたものだと感じました」と語る。以前は自己中心的で短気だったが、修煉を通じて忍耐力と優しさを身につけたという。今後も修煉を続け、心を磨いていくつもりだ。

同じく日本人学習者の柳澤さんは、昨年5月から参加している。以前から中国での法輪功への迫害について知り、自身で法輪功を体験したいと思い始めた。「中国人＝中国共産党という先入観がありました。『真・善・忍』の原則で修煉していると知り、考えが変わりました」と述べ、法輪功の創始者である李洪志先生への感謝も口にした。



■木場公園で学法をする学習者

韓国人学習者のジョン・ギョンホさんは、2000年頃から法輪功を学んでいる。幼少期から修煉に興味があり、知人の紹介で始めた。修煉前は人生の意味に悩んでいたが、法輪功を通じて心の平穏を得た。「困難があっても内省できるようになり、穏やかに対処できます」と語り、李洪志先生に感謝している。

地域住民の声

木場公園を訪れた人々も煉功場に関心を示している。子供向けの紙飛行機教室のために訪れた後藤さんは、法輪功が迫害されている現状を知り、「中国の閉鎖的な状況に驚きます。私がそこに生まれていたら、同じように戦うで

しょう。応援しています」と話した。

木場煉功場は、気功を学び心と体を整える場であると同時に、地域住民に法輪功やその背景を知る機会となっている。参加者は自然の中で静かに煉功を行い、それぞれが心身を整えている。

『轉法輪』出版30周年 日本人学習者の声

法輪大法の書籍『轉法輪』は、1995年に中国で初版が発行され、1999年には日本語訳が出版された。過去30年で50言語に翻訳され、世界中で多くの人々に読まれてきた。この本が異なる背景を持つ人々にどのように受け入れられているのか、日本人学習者の体験から探る。

道徳心の向上と健康の回復

2001年、出潔さんは友人の紹介で轉法輪を読み、個人の努力で自分の運命を変えることはできないことを悟った。糖尿病を患っていたが、読み進めるうちに血糖値が正常化し、20年以上再発していない。医者はその回復を奇跡と

呼んでいる。出潔さんは「自分が師父に感謝申し上げたいことは、糖尿病が完治したことではありません。道徳的に向上できたこと、これこそが『轉法輪』を読んで自分が得ることができた宝だと思っています」と述べた。

人生の指針を得た体験

中国で暮らしていた伊賀さんは1999年、妻の勧めで轉法輪を読んだ。読書が苦手だったものの「轉法輪は私が人生で初めて最初から最後まで読んだ本なのです」と語る。「この本は宇宙、生命、人体の謎を明らかにし、人間であることの目的と原理についても語っています。読んだらもう手放せなくなりました」と続ける。

現在65歳の伊賀さんは、両親から人生の道理を教わらなかったと言う。「轉法輪は初めて人々に『真・善・忍』の普遍的な道理をはっきりと教え、人間である目的は本性に戻ることであり、真・善・忍は善人と悪人の基準であると教えてくれました。これを基に子供たちを教育すると、子供たちは回り道することなく成長しました」と話す。当時、脳腫瘍と心臓病で働けなかったが、本を読み、煉功を始めたことで体調が回復した。「私に人生の目的と新しい人生を与えてくれました。法輪功の創始者である李洪志

先生にとっても感謝しています」と述べた。

身体と心の変化

2010年、長谷川さんは市の広報で法輪功の無料教室を知り参加した。教室では「心と体は繋がっていて、心が元気になれば身体も健康になる」との話を聞き、轉法輪を受け取ったという。「2回目のレッスンで顔色がどんどん良くなり、肌がつやつやになったのです。これは轉法輪に書かれている浄化だとすぐにわかりました」

その後、リウマチやバセドウ病などが改善。「繰り返し轉法輪を学ぶことで、人間として何が正しいことか、何が悪いことがわかってきました。良い人になりたかったので、大好きだったアルコールを止めることができました。12年間不道德な関係が続けてきた男性と別れました」と語る。「李洪志先生は無理やり何かをやめさせるのではなく、それが良くないと気づかせてくださり、自然と正しい道を歩むことができるようにして下さいます」と理解を述べた。



■2024年、5200人を超える学習者が台北の自由広場（中正紀念堂）で行った大規模な人文字活動

NYフラッシング旧正月パレード 「法輪功は太陽のように暖かい」

2月1日、旧正月4日目のニューヨーク・フラッシングで旧正月パレードが開催された。法輪功も参加し、天国楽団の演奏や竜の舞、腰太鼓隊の演奏が観客を引きつけ、特に中国人から好評を得た。数十万人が見物に訪れ、写真や動画を撮影していた。

パレードの様子と観客の反応

法輪功の色鮮やかな隊列は途切れることなく続き、パレードに活気をもたらした。観客からは「法輪功を見るために来た」という声が聞かれ、ある観客は「自分たちの利益ではなく、人類全体を救うためのものだと気づいた」と語った。また「隊列が現れると、まるで太陽が出て暖かくなったかのようだ」と感想を漏らす人もいた。

観客の感銘

初めてパレードを見た柳さんは感動を隠せなかった。「本当に胸が熱くなりました。法輪大法の威徳はどこにでも満ちています！ 以前はこんなに壮大で気迫に満ちたものとは思いませんでした」「法輪大法が世界に広がり、『真・善・忍』の光が隅々に届くよう願っています



■ニューヨーク州フラッシングで行われた旧正月パレードに参加した天国楽団

す。中国国内と海外にいる学習者が自由な中国で再会できる日を」と語った。

何さんは笑顔で動画を撮りながら「今、とても心地よい気分です。友人に『法輪功の学習者はみな優しく、隊列は中国の伝統文化に根差していて素晴らしい』と言いました」と感想を述べた。パレードを初めて見た劉さんは「中国では見られない美しさと壮観さです。『真・善・忍』に

共感しています。長く続いてほしい」と話した。

毎年見に来る廣さんは「法輪功が一番の見どころです。清潔感があり、整然としていて、芸術的。彼らを見るために来ています」と述べ「メンバーが増え、皆がこの信仰を持てば精神的にも健康的にも素晴らしい」と多くの人が法輪功を学ぶことを願った。

迫害を知る人々の視点

人権弁護士の張仁也さんは「フラッシングでこんな壮大な隊列を見て驚きました。20年前から『法輪功は歴史上最大の冤罪だ』と言い続けています」と述べ、学習者の弁護経験から「自己犠牲の精神と不屈の意志に敬服しています。中国には『真・善・忍』が必要で、それが人々を目覚めさせる鍵です。自由な中国を願います」と続けた。

武漢出身の実業家・呉平奇さんは、中国で「天安門焼身自殺事件」が偽装と気づき『共産党についての九つの論評』のDVDで中共の本質を理解した。「他者のために行動する純粋で偉大な人々をここで見ました。彼らは自身の利益ではなく、全人類を救うために行動しています。14億人の中国人のために声を上げており、その精神は中国人全員が尊敬すべきものです」と感動を語った。

未来への願い

田発全さんは、かつて中共の洗脳を信じていたが、海外のメディアを通じて真実に目覚めた。「『共産党についての九つの論評』で共産党の本質が『邪』だと分かりました。人を殺すだけでなく、心まで支配しようとする邪教です」と述べ、パレードを見て「明日にも中国で開催されることを願います。中国人が悪魔の束縛から解放され、再び神の子になれる日を」と願った。

法輪功の「真・善・忍」の理念は観客に深い感銘を与え、その希望と価値観が多くの人に伝わるパレードとなった。

稲沢市 法輪功学習者が迫害を伝える 警官や市民が声援

愛知県稲沢市の名鉄国府宮駅周辺で2月10日、学習者たちが中共による法輪功迫害の実態を伝える活動を行った。

当日は非常に寒く、強風が吹く中、学習者たちは「法輪大法」「真・善・忍」「法輪功が世界に広まる」「SOS法輪功への迫害を停止」などのメッセージを日本語、英語、中国語で書かれた横断幕を掲げ、迫害の実態を伝える資料を配布した。

この日は1000年以上の歴史を持つ稲沢市の国府宮「はだか祭」が開催され、地元住民だけでなく、遠方からの見物客も多く訪れていた。

活動開始直後から、多くの高齢女性が学習者のところへ来て資料を求め、活動について尋ねた。学習者は「法輪大法は中国の伝統的な修煉法

で、『真・善・忍』の原則に基づき、より良い人間になることを目指すものです。現在では世界100カ国以上に広まっています」と説明した。

60歳くらいの男性は、以前名古屋で迫害についての資料を見たことがあると話し、別の男性は毎年この場所での活動を目にしていると語った。3人組の男性は、ボランティアで活動している女性学習者の李さんに感動し、干し芋を贈ろうとしたが、李さんは「お心遣いは嬉しいですが、学習者が中国で受けている迫害について知っていただくことが大切です」と丁寧に断った。

中共による迫害の事実を知る警官が学習者たちに温かいお茶を買ってきて、「寒いから、熱いうちに飲んで暖まってね。頑張る！」と励ました。

午後には、イギリス出身の60～70代の男性3人が立ち寄った。その中の1人は日本の大学で教鞭をとっていた。彼らは迫害の実態を聞き、深い悲しみを示し、「中共は迫害をすぐに止めるべきだ」と訴えた。

40代の男性は、学習者から1999年に当時の国家主席・江沢民が始めた迫害

や、臓器収奪の実態について説明を受け、「中共を倒すのは難しいかもしれないが、このような平和的な方法で迫害



■資料を配布する学習者

の実態を伝える活動に心から敬服する」と語った。

この日、多くの人々が学習者の活動に理解を示し、励ま

しの言葉を贈った。冷たい風が吹く中でも、中共による法輪功迫害の実態を広く知ってもらうための活動は暖かな交流の場となった。

法輪功に出会い暗雲は消えた

私は20歳の時、交通事故に遭いむち打ち症になりました。病院に行く、入院した方が良いと言われましたが、1年前にも交通事故に遭い入院したので、職場に迷惑を掛けるのを避けました。それからは、後遺症で工作中に眠くなり、座ればすぐ寝てしまうのです。

42歳の時、家の階段を踏み外して腰と背中を打ち、椎間板ヘルニアになり、あちこち

の病院へ行きましたが良くなりませんでした。歩くのもすり足になり、ふくらはぎが固くて、毎朝、両足にこむら返りが起き辛かったです。畑の草取りもダンボールを敷いて四つん這いになってこなしていました。

48歳の時、バセドウ氏病になり、薬を飲むと髪の毛がどっさり抜けました。「頭皮が見えるよ」と子供達に言われましたが、そんな時、地域

の女性会の役員さんが声をかけてくれて法輪功に出会いました。

煉功場で教えてくれる女性は「毎日来てもいいですよ」と言ってくれました。とてもシンプルな動作だったので続けることにし、土日以外は毎日通いました。習い始めて1~2カ月くらいで顔がツルツルとしてきました。

アレルギーの薬も「治るまで飲んで下さい」と言われ続けていましたが、気功を教えてくれた女性に「この気功を続けていると、薬は飲まなくても良くなりますよ！」と言われ、薬をやめました。肌が痒くなりましたが、少しずつ治っては、又痒くなるの繰り返しで、今は何も感じなくなりました。

畑仕事でも、腰が痛くなった時は第一式功法をすると楽になり、また作業を続けることができました。鋤を使う作業も同様で、これは凄いなと思い、煉功を続けました。今年で22年になります。



■佐々木さん

が軽くなりました」と言ってきました。

また、コロナの時は、寮生たちに、法輪功の教えである「真・善・忍」が書かれたハスの花飾りを取りにおいでと伝えました。野球部の生徒たちにも、ハスの花飾りをあげました。ドアに掛けている人やカバンに付けている人もいました。職場に来る業者の人にも花飾りと資料をあげ、多くの人が喜んでくれました。

夫の病を退ける

家では、夫と言いつ争いになることもあります。夫はおりに触れ「法輪功をやめなさい」と言いますが、私は絶対にやめたくありません。夫は、私に文句を言って気晴らしをしているようです。もしかしたら、前世で、私は夫にひどいことをしていたのかもしれない。

数年前、夫は骨髄に膿が溜まり、透析と足の切断を覚悟するよう言われました。手術当日、主治医が「不思議です。骨の中に壁が出来ていました」と言い、切断を免れました。これは師父が菌が上がらないよう壁を作って止めてくださったのだと思います。

台湾で育った建伍さんは、若い頃から権威に反発する性格でした。優秀な成績で有名大学の英文学科に進学し、文学理論や批評を学ぶ中で、批判的な物の見方を身につけました。

仕事も順調には進まず、古い家屋のリノベーション、アートスペースの運営、個人での翻訳の受注など、様々な職を転々としてきました。オーストラリアでのワーキングホリデーでも「3カ月経っても仕事が見つからず、レストランでの皿洗いも突然解雇され、最後は寒さで手の感覚がなくなるほどの、非常に厳しい寒さの中での農作業をしていました」と当時を振り返ります。台湾に戻り、政府機関での契約社員の仕事をいただきましたが、70キロの通勤距離と職場のストレスで軽度のうつ病を発症。居眠り運転で大きな事故を起こし、車は大破しました。

建伍さんは、自身の不遇の背景に共産主義思想の影響があったことに気づきました。「後になってわかったのは、

共産主義思想というのは状況に応じて狡猾とその姿を変え、時には『平等』というような美しい言葉に偽装されるということです。今では、平等とはすべての人が『善良さを選ぶ権利』を持つことであり、努力せずに他人の成果を奪うことではないと考えています」と振り返ります。

コミュニケーションが取りにくいのか、友人は建伍さんから離れて行きました。「その時の私はまるでハリネズミのようで、誰が何を言おうと、鋭い言葉で反論していたのです」と当時を振り返ります。その態度のため、友人との連絡も途絶え、ほぼ孤立した状態に陥っていました。

そんな折、オンラインでの読書会に参加した時に法輪功の学習者と出会い、『轉法輪』を読む機会を得ました。「本当に何の先入観もなく読みました。まるで魂の深いところにある空虚な部分が満たされたようで、とても充実感

共産主義的価値観を捨てた台湾の青年

「修煉で得られるものは何にも変え難い」

を得ました」と建伍さんは語ります。

修煉を始めてから、建伍さんの人生は大きく変わりました。現在はギャラリー協会のマネージャーとして、メディア広報とマーケティングを担当。同僚との関係も良好であり、古い友人たちも「今の建伍さんはまるで別人のように変わりました。優しく、穏やかで、重荷を感じることもなく、他人の話を聞くことができるようになりました」と感心します。

建伍さん自身も、「修煉をしてからは、挫折に遭っても、穏やかに動揺せずに受け止めて試練だと考えるようになりました。以前のような不満を抱く心は完全に変わり、恨む必要はなく、物事の得失や不公平な出来事は無意味なものではなく、すべて因果関係があるものだと理解できるよう

になりました」と、心境の変化を語っています。

「修煉は身心を最善の状態に戻し、前向きに人生と向き合えるようにしてくれます。自分の努力次第で得られるも

のが変わり、強制されることもありません。しかし、修煉で得られるものは、この世のどんなものにも代えがたい価値があります」と建伍さんは締めくくりました。



■建伍さん

法輪功を学ぶには

法輪功（ファールンゴン）は法輪大法（ファールンダーファ）とも呼ばれます。1992年に李洪志氏により伝え出された、心身を鍛える気功修煉です。法輪功の修煉は、「真・善・忍」を理念とし、日々の生活の中で自らを高め、家庭や社会の安定と、人々の健康増進、道徳水準の向上にも、計り知れない効果をもたらします。

一、修煉とは

法輪功は、心性を高める「修」と煉功をする「煉」の2つが含まれます。

1、学法

法輪功の主要な著作『轉法輪』には、修煉に必要な法理がすべて含まれています。『轉法輪』を繰り返し読むことで、深い内包を悟ることができます。

法輪功学習者（以下、学習者）は普段、法輪功の著作を学習することを「学法」と呼んでいます。学法には、注意すべきことが2点あります。

1) 『轉法輪』を読む時、はじめから終わりまで通読すべきで、一部分だけを選んで読むはいけません。途中で中断しても構いません



■法輪功の功法は、公園や公民館などで無料で学べる

が、書かれている順序どおりに読むべきです。

2) 学法の時、いかなる求める心もあってはなりません。心を落ち着かせて繰り返し通読してこそ、「求めずとも自ずと得る」ことができるのです。

学習者は、通読中に生じた疑問への解答が、後ろの章で得られることがあると体験しています。また再び通読すること

で、また新たな疑問が生じ、また解答が得られません。

2、煉功

法輪功は煉功と呼ばれる5セットの功法があります。李洪志先生が書かれた『法輪大法大圓滿法』には功法の特長、写真と動作の説明、付録が含まれます。

二、学ぶには

入門書の『法輪功』または『轉法輪』を通読するか、9日間のビデオ学習講座に参加して、李洪志先生の説法の録画を順序どおり見ます。

『轉法輪』は「論語」と九講の説法から構成され、説法の録画・録音も同じく九講です。

世界中の学習者たちがボランティアで教える煉功場（気功教室）があります。最寄りの煉功場を

探し、「9日間のセミナー」が開かれていれば九講の説法を全て聞き、5セットの功法を学ぶことができます。

煉功場では皆で煉功し、正しい動作を学び、学習者が間違いを直してくれるため、効果が高まります。続けて参加することで惰性を克服しやすくなります。

周りに煉功場がない方は、李洪志先生が功法を教えている録画ビデオを見ながら独学することができます。毎日煉功する時、法輪功の煉功音楽に合わせて煉功しましょう。

また、インターネットで、オンラインレッスンを無料で受講することもできます。煉功の動作を学ぶだけでなく、書籍と一緒に読むグループもあります。

初めての方へ：

法輪功の活動はすべて学習者たちがボランティアで無料で行っています。ビデオ学習講座、功法レッスン、修煉体験交流会など、修煉の純正さを保つために、料金を取る行為を絶対に禁じています。もし有料のものがあれば、それは決して法輪功が開催したものではありません。

5セットの煉功動作



①佛展千手法

②法輪樁法

③貫通兩極法

④法輪周天法

⑤神通加持法



オンラインレッスン
各地の無料気功教室



『法輪功』（ファールンゴン）

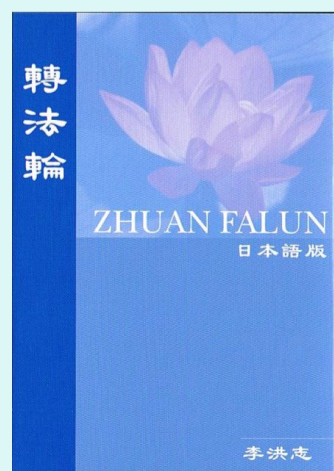
1993年に中国で発売され反響を呼んだ話題の一冊。心身ともに健康になる中国伝統の気功修煉法「法輪功」の入門書。



無料で読む



書籍を購入



『轉法輪』（ジュワンファールン）

1996年に中国北京でベストセラーとなった。「真・善・忍」を理念とする法輪功の修煉を、体系的に指導する最も主要な書籍。



無料で読む



書籍を購入

14人の法輪功学習者が迫害で死亡と判明

2025年1月

2025年2月7日付の明慧ネットの報道によると、中国共産党（以下、中共）からの迫害を受けて14人の法輪功学習者（以下、学習者）が死亡したと1月に明らかになった。このうち9人が女性、5人が男性で、最高齢者は83歳、最年少者は48歳であった。中共のネット封鎖を突破した民間ルートを通じて情報収集・検証してきた明慧ネットの統計によれば、迫害が始まって以来、5,178人の学習者が迫害で死亡している。

河北省張家口市懷來県の劉朝暉さん（50歳）は医師として勤めていたが、法輪功を学んでいたために解雇され、懲役7年の判決を受けた。そして刑務所での拷問や虐待により、今年の1月6日に死亡した。彼の父親・劉玉書さん（80歳）は、同様に労働教養や洗脳班での拘禁により身体的・精神的な拷問を受け、2024年5月にこの世を去り、母親の倪文秀さんも度重なる拘束や嫌がらせを受け、2023年11月に亡くなった。



山東省日照市の李鳳英さん（52歳）は、済南女子刑務所での迫害を受け、子宮癌とリンパ腫を発症した。家族が医療仮釈放を求めたが、刑務所側は彼女が法輪功を放棄しないことを理由に拒否した。最

終的に、彼女は瀕死状態で帰宅を許されたものの、4カ月後の2024年12月31日に息を引き取った。

吉林省遼源市東豊県の董玉素さん（59歳）は、2024年8月に連行され、留置場での迫

害により全身が腫れ、呼吸困難となり、同年12月にこの世を去った。同じく遼源市の尚淑霞さん（62歳）は、20年以上にわたり連行、拘束、労働教養などの迫害を繰り返し受

け、2024年10月に亡くなった。

法輪功は法輪大法とも呼ばれ、心身を健康にする伝統的な修煉法である。しかし中共は1999年7月以来、この修煉法を迫害している。

長春市の学習者（70代）3人に不当判決

長春市九台区の学習者（70代）3人が不当判決を受けた。田志斌さんは懲役4年、朱桂清さんは懲役2年8カ月、劉玉芬さんは懲役3年6カ月。

田志斌さん、朱桂清さん

田志斌さんと朱桂清さんは夫婦で、長春市公安局によって不当に逮捕された。2人は

1996年から法輪功を学び始め、「真・善・忍」の理念に従って生活し、学習を始めて間もなく心身ともに健康になった。田志斌さんの重度の

心臓病、頭痛、胃病などはすべて自然に治癒した。

劉玉芬さん

劉玉芬さんは2023年7月21日午前7時過ぎ、九台区土門嶺派出所に連行され、家宅捜索を受けた。そして15日間の不当な拘留後、刑事拘留に切り替えられた。劉玉芬さんは1996年に法輪功を学び始めてから、患っていた胃病や頭痛、腰痛が約1カ月後には自然に治癒し、性格も明るくなり、家庭も円満になった。しかし1999年7月20日、中共による法輪功への迫害が始まった。劉さんは2000年2月、法輪功のために北京に陳情に行ったが、地元の派出所に連れ戻された。2度平手打ちされ、15日間不当に拘留された上、200元（約4000円）の罰金を科された。同年4月、劉さんは再び北京に赴いたが、土門嶺派出所に連れ戻されて15日間の拘留後、長春黒嘴子

労働教養所に移送され、1年間にわたり毎日朝3時から夜10時まで作業場で働かされた。

2001年秋、劉玉芬さんは天安門広場で横断幕を掲げ「法輪大法は素晴らしい」と訴えたところ、警察に捕まり、車に連れ込まれて狼牙棒（ろうげぼう：打撃武器の一種）で激しい暴行を受け、肩と背中が青あざだらけになった。日暮れには派出所に連行されたが、警察に住所を聞かれた劉さんは答えず、電気警棒で腕と口に何度も電気ショックを与えられ、腕からは出血した。電気ショックによる傷跡は、今も残っている。2008年、警察の強引な尋問により、劉さんは迫害され、再び長春黒嘴子労働教養所に2年間送られ、所内で腎臓結核を患い、毎日何度も血尿が出て寝たきりとなり、医療仮釈放を受けることになった。



『馬三家からの手紙』を上映 ドイツ

ドイツでは1月15日、ゲッティンゲン市に本部を置く人権団体「被害民族協会（以下、同人権団体）」とカールスルーエ市の映画館が『馬三家（マサンジャ）からの手紙』を上映した。

この映画は、中国共産党（以下、中共）が法輪功学習者（以下、学習者）に対して25年以上にわたり犯してきた迫害のドキュメンタリー。

同人権団体のガウリー理事長は、次のように述べた。「私たちの協会の原則は、自身の信仰によって迫害されている人々のために立ち上がることです。私たちは、長年脅かされ、迫害されている人々の人権を守るために尽力してきました。中共が法輪功を迫害し続けていることは、何年も前から知っています。学習者のために声を上げることは、私たちにとって当然のことです」

主人公の勇気に感銘

弁護士で税務コンサルタントのアンゼラム・シュミット氏は映画の鑑賞後、次のように述べた。「非常に深い印象を私に与えました。法輪功という仏教系の修煉法を初めて知ったからだけではありません。この映画は、中共が学習者を極めて残酷に迫害していることを非常に明確に示していました。無差別な弾圧、拷問、虐殺が行われているのです。主人公が見せた非凡な勇気に強い感銘を受けました」

中共の海外浸透を非難

ガウリー理事長と映画館マネージャーのトイシャー氏は、上映会の開催過程で、中共がここ半年間で海外の学習者に対する越境弾圧やスパイ活動を強化し、西側メディアを利用して世論を操作し、法輪功への迫害をさらに激化させていることを知った。

トイシャー氏は、上映会が安全かつ円滑に開催されるよう警察に連絡し、支援を得た。

中共から迫害を受けている人々の解放を

ガウリー理事長は、観客との交流で次のように述べた。「ほぼ1年前、欧州議会は中共による法輪功迫害を非難する緊急決議を採択し、EUおよび加盟国に対し、学習者への迫害に関与した個人や団体に制裁を科すよう求めました。この決議の採択は重要な一歩であり、とても心強い」

「中共は、中国国民の人権を極めて耐え難い方法で侵害しています。EUおよび加盟国は、中共のような専制政権に真剣に対応すべきです。そして中共政権に対し、迫害を受けているすべての人々を直ちに解放するよう一貫して促すべきです」

AN SOS FROM ACROSS THE WORLD
LETTER FROM MANSANJIA
Filmvorführung 75 Minuten
Mittwoch,
15. Januar 2025
19.00 Uhr

Eine Frau aus Oregon in den USA findet in einer Halloween-Dekoration von Kmart einen SOS-Brief eines chinesischen Dissidenten, der eine Kette von Ereignissen in Gang setzt. Das gesamte Arbeitslagersystem in China wird dadurch zum Erliegen gebracht und die gefährliche Mission des Briefeschreibers beginnt, um eine schlimme Verfolgung aufzudecken.

Lebin Ding ist Menschenrechtsaktivist und freiberuflicher China-Forscher. Er ist aber auch der Sohn verfolgter Eltern im kommunistischen China, dessen Schicksal und Sicherheit das Europäische Parlament in der Entschließung des EU-Parlaments vom 18. Januar 2024 behandelt hat.

Für Menschenrechte. Weltweit.

Gesellschaft für bedrohte Völker
Regionalgruppe
Karlsruhe

KINEMATHEK
KARLSRUHE

Kaiserpassage 6
76133 Karlsruhe

『馬三家からの手紙』上映会のポスター

『国家の臓器』を上映 米国

ペンシルベニア州ドイルタウンの区役所では1月29日午後6時、ドキュメンタリー映画『国家の臓器』が上映された。この76分間の映画は、生体臓器取奪という中共の犯罪を描き、多くの人々を驚愕させた。そして1億人以上の学習者への25年間にわたる中共の迫害を止めるため、自分たちにできることをしたいと感想を述べた。

臓器取奪に衝撃

パイロットのクリス・デイヴィスさんは、衝撃と怒りを抑えきれなかった。「心が折れそうだ！ こんなことが起きているなんて全く知らなかった。世の中にこれ以上悲しく恐ろしいことはない！」と語り、「中国は世界の製造業の中心だが、もし中国製品を世界共同で禁輸にすれば、中共に変化を迫るのに十分な圧力になるだろう」と述べた。



■上映後のパネルディスカッションで観客からの質問に答える専門家

治療用冷却パッドメーカーの社員イリカ・ヴェルナーさんは、「以前、（中共による）臓器取奪について聞いたことがありましたが、こんな

に深刻だとは知りませんでした」と衝撃を受けていた。「中国の医学生が米国で教育を受けた後、少なくとも10年間は米国に留まるべきで

す。そうすれば、彼らが帰国後に臓器取奪に強制的に関与させられるのを防ぐことができます」と述べ、「彼らに外科手術の技術を教えることは

できません。というのも彼らが中国に戻れば、中共に強制されてワゴン車の後部座席で生きた人間の臓器を取奪させられることになるからです！」と語った。

現在も続く中共による臓器取奪

法輪大法情報センター（Faluninfo.net）の資料によると、中国の臓器移植病院は、わずか数週間、場合によっては数日以内に適合する臓器を見つけることができると宣伝している。一方、他の国では通常、数年を要する。例えば、米国での腎臓や肝臓の移植の平均待機時間はおよそ2〜3年とされている。

中国では極めて迅速に臓器が提供されるという事実は、中国の病院の背後に生きたドナーの巨大な供給源が存在し、必要に応じて臓器が取奪されていることを示している。「需要に応じた移植」が可能になっているのだ。

【神伝文化】心が清浄なら終わりを全う

明の嘉靖年間、江西省に兪都（字（※）は良臣）という人がいました。彼は私塾にいた時、十数人と一緒に「文昌社」というサークルを作りました。字を書いた紙を大切にし、捕らえられた生き物を放してやり、殺生を戒め、邪淫を排し、失言をせず、善行のみをすることを誓い、長年にわたって実践してきたつもりでした。しかし郷試（地方試験）には7回落第しました。

（※）あぎな。実名とは別につけられた呼び名

次々と子供を失う

妻との間に5男4女の子供がいましたが、4人の息子は幼い時に亡くなり、1人だけが残りました。この子はとても聡明で、左の足裏に二つのほくろがありました。夫婦に宝物のように可愛がられていましたが、8歳のときに遊んでいて迷子になり、それきり行方不明になってしまいました。4人の娘のうち3人も幼くして亡くなり、1人だけが生き残りました。幼い子供たちを次々と失った妻はしばしば泣き、ついに視力を失いました。兪都は落ちぶれ、貧窮の日々が続く中、何も悪いことをしてこなかったのに、なぜ天罰が下ったのかと、よく自省しました。

かまど神への祈り

兪都は40歳を過ぎ、毎年の師走と新年の境目に、かまど神に自分の気持ちが伝わるように祈り、疏文を書いて燃や

しました。7年間、何の奇跡もありませんでしたが、47歳の大晦日の夜、貧しい家で目の不自由な妻と娘と向かい合って座っていたところ、突然、ドアをノックする音がしました。兪都が蠟燭を手にとり、ドアを開けてみると、頭巾を被り、下級官吏が着用する黒い服を着た半白髪の老人がいました。老人は席に着き、自分の名前は張であり、兪都一家の悲しみを聞き、遠くから慰めに来たと言いました。

兪都は敬意を持って老人に接し、自分が学問に励み、善行を行ってきたにもかかわらず、成功を取めることができず、子供たちも早々に亡くし、衣食住も不十分と話し、長年かまど神に宛てて書いてきた疏文を暗唱し聞かせました。

老人はこう言いました。「君の事情は前から聞いてきた。しかし君の意識にある邪念はあまりにも多く、虚名ばかり追い求め、いわゆる疏文も玉皇大帝に対する不平と冒瀆に満ちており、さらに罰が下るのではないかと心配している」。兪都は、驚いて聞き返しました。「冥冥の中、善も悪も必ず記録されると聞き、サークルの全員と善行を誓い、言行を慎んできました。どうして虚名ばかりと言われるのでしょうか？」

老人の回答

「では、一つずつ列挙してみよう」と老人は答えました。「『字を惜しむ』と言いつつ、君と諸生は、ややもす

れば字のある紙で部屋の壁を補強したり、物を包んだり、机と椅子を拭いたりして、汚損があることを理由に燃やしてしまう。放生（捕えた魚や鳥を放つ）と言いつつ、料理にはエビやカニが絶えなかった。失言も数えきれないほどあった。君が人を中傷、嘲笑する言葉は鋭く巧みで、鬼神でさえ怒りを覚える。邪淫の行いはないものの、君は美しい女性を見ると心が揺れ動いた。君は妄想を真実とし、節約に生きていると思込んでいる。君が誓った善行でさえこのような状況だ。他は言うまでもない！君が燃やしてきた疏文はすべて、玉皇大帝に届けられている。玉皇大帝はかつて、使者を遣わし君の善行と悪行を数年間調べさせたが、記録に値する善行が一つもなく、君の貪欲、淫念、果てしない嫉妬、自分を高く評価して他人を見下し、過去を忘れず復讐と怨嗟に満ちた心を持っていることをご覧になった。これほどの悪気のゆえ、災難から逃れられるとも言い切れないのに、幸せを祈るなんて無駄だろう」

これを聞いた兪都は恐怖におののき、地面に伏して慟哭し、助けを求めました。老人は「貧欲を捨て、嫉妬を制御し、妄念を除き、名声や報酬



を求めず」として善行を積むことを教えた後、部屋の奥のかまどへ向かい、突然姿が消えました。兪都は老人が命を司る神であると悟り、香を焚いて拝礼しました。

善行への報い

翌日の旧正月初日、兪都は神に祈り、かつての悪行を改めて善行に努め、「浄意道人」と自称し、あらゆる妄念を取り除くことを誓いました。それ以来、彼は一言一行において、傍らに鬼神がいるように、ごまかしも勝手もなくなり、やがて行動すると善が常に随い、静になると一念も起たずという境地に至りました。

万暦5年、進士に合格した53歳の兪都はある日、宦官の楊公を訪ねました。楊公は5人の養子呼び出して挨拶をさせました。そのうちの16歳の少年の顔に見覚えがあると、少年は「私は江右の出身です。幼い頃穀物船に迷い込み、家からはぐれてしまいました。自分の姓が閩里である

ことを臆げに覚えています」と答えました。兪都は驚き、少年の左足裏を確認してみたところ、本当にほくろがあったので「君は私の息子だ！」と叫びました。これを聞いた楊公は、その少年を兪都のもとに返しました。

一部始終を聞いた妻は嘆き悲しみ、また喜び、血の涙を流しました。息子も喜びと悲しみが入り交じって涙を流し、母親の顔を両手で抱え、目を舐めました。すると、母親は両目の視力を取り戻しました。兪都は悲喜こもごもで、役人を辞職して故郷に戻り、さらに善行に励むようになりました。息子は結婚して7人の子供を儲け、全員が兪家の伝統である修養と学問を受け継ぎました。兪都はかまど神との出会いや善行に励むことについて本に書き上げて子孫を訓育し、88歳で亡くなりました。当時の人々は、すべては兪都の善行による天からの報いだと言語継ぎました。

（出所：清代の史玉函の『徳育古鑑』）

【神伝文化】名利でなく儉約を重視

楊綰は、唐代中期の華州華陰の出身で、字を公権と言いました。幼い頃に父親を亡く

して貧しかったものの、母親に敬意を持って仕え、穏やかで物静かな気質で、名利を重

視せず、儉約の美德で有名でした。

楊綰は名を馳せることを好まず、若い頃に何かを執筆しても他人に読ませようとせず、後に殿試（官僚登用試験）を受けて一位を取り、右拾遺（官職名）に任ぜられました。その後、中書舎人（官職名）に昇進しましたが、当時の旧例では、舎人を長く務めた者は閣老と呼ばれ、官署からの俸給の5分の4を持って行くことができました。しかし、楊綰は一切受け取らず、

舎人に均等に分け与えました。訪問者と一日中話しても、楊綰は決して名利のことを口にするこもなく、私用を頼もうとする訪問者は、楊綰の言葉を聞いて恥ずかしくなり、自らやめるのが常でした。

儉約の美名

楊綰は儉約家で、生計について一切口出しせず、俸禄（ほうろく：給与）のすべてを親戚や友人に分けていました。当時、御史中丞の崔寛は贅沢をしていて、城南に豪華

な別荘を建てましたが、楊綰が宰相になったその日、別荘を取り壊しました。普段は百余騎の供を有する京兆夷の黎幹も、直ちに騎兵を十数人に減らしました。

また、邠州の行營で大宴会を開いていた中書令郭子儀は、楊綰を宰相に任命する詔書が届くと、直ちに宴会の音楽隊を5分の1に減らしました。

史書によると、こうした知らせを聞いて自発的に儉約した者は数えきれないほどで、みな楊綰の威信と儉約の美名に影響を受けたのでした。



写真特集



- ① カナダ・トロント木工展がトロントの国際センターで開催（1月17日-19日）。法輪功のブースを多くの人々が足を止めて見ていた。その場で功法を学んだ人々もいた。
- ② トルコ・イスタンブールの高級地区ベシクタシュのアカトラル文化センターで「真善忍国際美術展」が開催（1月10日-16日）。
- ③ オーストラリアの法輪功学習者は1月26日、アデレードで開催されたオーストラリア・デー・パレードに参加し、共に建国記念日を祝賀。
- ④ マレーシアの法輪功学習者は2月1日と2日、観光地のケタム島とマラッカで旧正月祝賀パレードを開催。
- ⑤ ドイツ明慧冬季キャンプがドイツ中部のホルン＝バート・メインベルクで開催（2024年12月28日-2025年1月4日）。短くも充実した時間を過ごした。
- ⑥ ルーマニア第一回明慧冬季キャンプが南カルパチア山脈のピアトラ・クライウルイ国立公園で開催（1月2日-6日）。2歳から15歳までの14人の子供が参加。

『明慧インターナショナル・30周年特別号』



法輪功が1992年に伝えだされてから、世界130カ国、1億人に愛好されている現在までの状況を紹介。

また、迫害制止を求めた勇気ある行動、世界各地からの声援などを掲載。

PDFファイルの無料ダウンロード



明慧ダイジェスト
発行元

明慧（ミンフイ）ネット
<https://jp.minghui.org/>
MAIL:editor@minghui.jp

明慧ネット日本語版は、2001年7月に開設しました。法輪功について紹介、世界各国の活動、学んだ人たちの体験談などを掲載しています。

また、中国における迫害の状況を報告しています。